

- 137 主よ。あなたは正しくられます。あなたのさばきはまっすぐです。
- 138 あなたの仰せられるさとしは、なんと正しく、なんと真実なことでしょう。
- 139 私の熱心は私を滅ぼし尽くしてしまいました。私の敵があなたのことばを忘れていたからです。
- 140 あなたのみことばは、よく練られていて、あなたのしもべは、それを愛しています。
- 141 私はつまらない者で、さげすまれています。しかし、あなたの戒めを忘れてはいません。
- 142 あなたの義は、永遠の義、あなたのみおしえは、まことです。
- 143 苦難と窮乏とが私に襲いかかっています。しかしあなたの仰せは、私の喜びです。
- 144 あなたのさとしは、とこしえに義です。私に悟りを与えて、私を生かしてください。

צַדִּיק אֶתְּהָ יְהוָה וַיִּשָּׁר מִשְׁפָּטָיִךְ׃
 צִוִּיתָ צֶדֶק עֲלֹתֶיךָ וְאַמוּנָה מְאֹד׃
 צָמַתְתָּנִי קִנְאַתִּי כִּי־שָׁכַחוּ דְבָרֶיךָ צָרִי׃
 צְרוּפָה אִמְרָתְךָ מְאֹד וְעַבְדְּךָ אֶהְבֶּה׃
 צָעִיר אֲנֹכִי וְנִבְזָה פְקֻדֶיךָ לֹא שָׁכַחְתִּי׃
 צַדְקָתְךָ צֶדֶק לְעוֹלָם וְתוֹרָתְךָ אֱמֶת׃
 צָרָוּמְצוּק מְצָאוֹנֵי מְצוֹתֶיךָ שֶׁעָשִׂעִי׃
 צֶדֶק עֲדוֹתֶיךָ לְעוֹלָם הִבִּינִי וְאַתִּיָּה׃

第十八字「ツァーデー」は英字アルファベットの「Ts」に相当する子音字です。「正義」を意味する「ツェデク」（144 節）、「正しい」を意味する「ツァディーク」（137 節）などの頻出単語が含まれています。今日の箇所は「正しい神」「義なる神」が中心に置かれていることが分かります。

צַדִּיק／ツァディーク…合法的な、正しい
 צִוִּיתָ (צוּ)／ツインウィーター (ツァーヴァー) …命令する、責任を課す
 צָמַתְתָּנִי (צַמַּת)／ツィムターテニー (ツァーマート) …終わりをもたらす、切り落とす、撲滅する
 צְרוּפָה (צָרַף)／ツェルーフアート (ツァーラフ) …嗅ぐ、洗練する、試す
 צָעִיר／ツァーイール…小さい、重要でない、若い
 צַדְקָתְךָ (צֶדֶקָה) …ツイドゥカーテカー (ツェダーカー) …正義、義
 צָר／ツアル…苦悩、困難
 צֶדֶק／ツェデク…義

神が「正しい方」でなければならない理由があります。それは人間世界の裁きが偽りに満ちているからであり、歪められた裁判によって流されてきた多くの涙が拭われなければならないからです。その裁きは、地上で実現するものもあれば、終わりの日まで待たなくてはならないものもあります。しかし、どんなに時間がかかったとしても、正しい神であるならば、信じる者はこの方を信じ期待を寄せることができます。

彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい」と言い渡された。(黙示録6:10-11)

139 節で詩人は「私の熱心は私を滅ぼし尽くしてしまいました」と、燃えるような思いを告げています。敵対者が「あなたのことばを忘れていたから」という理由ゆえに、悔しくて自らを打ち叩いたのでしょう。神が侮られている状況を見て公然と暴れ回った人がいました。

そして、宮の中に、牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちがすわっているのをご覧になり、細なわでむちを作って、羊も牛もみな、宮から追い出し、両替人の金を散らし、その台を倒し、また、鳩を売る者に言われた。「それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」弟子たちは、「あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い起こした。(ヨハネ2:14-17)

自分の義のためにではなく神の義のために悶え苦しむということが、私たちの人生には時折訪れるはずで、兄は子どもの頃、教会案内を紙飛行機にして飛ばしている同級生を見て、悔しくて大泣きしたと言います。「大切な神様のメッセージが書かれているのに」と。私自身も、ある漫画を読んでいたときに「イエス・キリストの十字架も自己満足や」と書かれている文章を見て怒りに震えたことがあります。

御言葉を「愛する」(140 節) 詩人を「蔑む」(141 節) 者たちがいました。十字架の福音が理解できない人にとって、それが愚かな教えに聞こえるのは仕方のないことです。なぜなら、それは神の奥義であり、聖霊によらなくては受け入れることができないパラドックスだからです。

十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしくする。」知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。(I コリント1:18-24)

詩人は誰に何と言われようとも、神のことばを擁護してやみません。「あなたのみことばは、よく練られていて、あなたのしもべは、それを愛しています」(140 節)、「しかし、あなたの戒めを忘れてはいません」(141 節)、「あなたの義は、永遠の義、あなたのみおしえは、まことです」(142 節)、「しかしあなたの仰せは、私の喜びです」(143 節)、「あなたのさとしは、とこしえに義です」(144 節)。御言葉に食らいつく詩人に対して、主イエスならこのようにおっしゃったのではないのでしょうか。

義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。(マタイ5:10)